

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念を玄関に掲示している。グループホームの理念はあるが、地域を取り込む部分に欠けている。	○	今年度のグループホームの理念には、地域を取り込む部分が盛り込まれていないので、次年度の事業計画の中に組み入れて、見えるところに掲示していきたい。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の関わりの部分においては、常に笑顔を忘れないようにしている。理念に基づいた記録などには反映されていない。		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域住民や家族に対して、理解を促すような説明や具体的な取り組みは行っていない。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地や交通機関とのつながりも良くないことから、気軽に立ち寄れる場所がない。可能な限り、こちら側から地域に出向くようにしている。		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常生活、各行事などがグループホーム内で完結していることが多く、地域の一員としての活動には参加していない。	○	自治会、民生委員、老人クラブ等との関わりをもちながら、それぞれの行事や活動に出来る範囲内で参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をする事により、反省する事や不足な部分についての気づきに繋がっている。その気づきを上手く改善につなげられていない。地域との交流という部分で、地元の保育園児とさつま芋掘りを実施した。	○	地域との関わりがまだまだ薄いので、次年度は重点的に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	具体的な意見は出されていないが、利用者の自立した生活を支援していくような働きかけをどんどんしてほしいと話されている。	○	会議の中で出された、認知症予防に関する集まりを自治会と連携して実現していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のみとなっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当該研修に参加した職員の復命を見たり、関連するパンフレットなどを見て各自で学ぶようにしている。当該研修に参加した職員による勉強会を実施し、少しずつ知識を習得しようと取り組んでいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律や制度の研修は行っていない。当該研修に参加した職員の復命書を読むようにしている。法人内の身体拘束ゼロ委員会に参加し、身体拘束ゼロに向けた取り組みを学ぶ機会としている。言葉遣いには十分に注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に想定できる内容については出来る限りお話し、わからないことはないか伺うようにしている。また、それ以降も折に触れ、相互理解を深めるために希望や意見がないか伺うようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が話しやすい内容(外出や食事など)については、早急に対応するようにしている。担当職員との関わりを通じて、その中から希望や意見、困ったり不満なことはないかを伺うようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的な報告は行っていない。面会時に近況報告をしたり、預かり金の出納帳を見て頂いたりしている。その他、通院の結果や体調の変化があった時には、随時電話連絡している。</p>	<p>○ 月に1度は、利用者の状態報告をかねて連絡を取るようになりたい。(グループホーム独自の広報を作り家族へ出してほしい)その際、家族の状況把握も行うようにしていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時や家族との行事の際、話したいことなどないか、伺うようにしている。具体的な意見などは聞かれていない。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全員参加での会議が難しい状況もあるため、前もって課題に対して個々の意見を書き止めた物を全職員に配布するなどして、短時間で有意義な意見交換が出来るように配慮している。また、申し送りノートなどで、それぞれの立場(職務分掌や利用者の担当として)の意見を記入して相互理解を図るようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や急な通院等の場合は、職員間の話し合いのもと、勤務変更や勤務交換で対応している。行事や通院などの際は、配置を多くして利用者と共に時間を過ごせるように配慮している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>4月に定期人事異動(1名)、6月に1名の離職があったが、利用者の日々の生活におけるダメージは最小限に止まっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得のための研修、各種団体の研修会など、経験年数や順番などにより極力参加するようにしている。また、資格取得のための相談や助言等を行うようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県や地区のグループホーム協会の定例会等に参加し、交流や情報を得て、発見や反省をする機会となっている。近隣の2法人との交流会があり参加して情報交換している。同業者間の職員交流等には至っていない。</p>	<p>○ 他施設への見学や研修など段階を踏みながら実施していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>福利厚生センターや職員互助会に加入して、会員事業へ参加を促したりしている。昼食後、職員が交代で休憩を取るようになっている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得にむけた働きかけを行っている。</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用に至るまでに、自宅の方へ数回足を運んだり、本人にも担当ケアマネらと足を運んで頂きながら機会を作っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>最初の面談の折に、家族の苦労や思い、悩みを充分に話していただいて上で、助言等するように心懸けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時点で、複数のサービス利用をしている方がほとんどである。利用しているサービス以外で考えられる時は、お話しするようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込時より、利用に至るまでに、下見や見学に来ていただいたり、自宅の方に赴き顔なじみになっていただくように配慮している。担当ケアマネとも連絡を取り合っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と担当職員との関わりを基本線におき、その関係を密にしながらい信頼関係作りができるようにしている。	○	利用者と担当職員が関われる機会多く作っていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の折に、利用者の状況を話しながら、家族の話を聞いたりして、利用者と家族を結び、共に喜んだり哀しんだりできる信頼関係となるような関わりを持つようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との距離が広がらないように、面会時に家族との写真を撮り、掲示して記録するようにしている。面会の少ない利用者についても、強制的にならないように面会を依頼するようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店や知人の理髪店などに行くようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	介護度の違いや男女比など、利用者同士の関わりは限られた利用者間でのみとなっている。利用者間の関わりへの働きかけはまだまだ不十分。1年を経過して、少しずつではあるが、他の利用者を気遣う言動が見られるようになった。	○	利用者間の関わりがスムーズになるような働きかけをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院のため退所された利用者については、お見舞いに行ったり、家族に近況を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	通院や買い物、外出時など、利用者と担当職員が出かけられるようにし、その過程の中でより中身のある会話が出来るように配慮している。意向の把握が困難な利用者については、利用者のそれまでの人生観や家族の意向等を基本に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人、家族はもちろんだが、面会に見えた知人や近隣の方にも昔の様子を伺ったりして、家族でも知り得なかった新たな発見をしたりしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントツールを利用しながら、情報収集している段階。総合的に把握する段階に至っていない。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の家族が遠方の場合、意見の反映が難しく、事業所サイドからの提案になりがちである。担当職員と計画作成担当者のみで作成していることが多い。	○	家族や医療関係者も交えてのプラン作りを行ってきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し、変更の際、家族を交えた話し合いまでは出来ていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきなどについては、申し送りノート等で行っているが、計画の見直しなどに随時生かし切れていない。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけの診療所通院の場合は、極力担当職員が付き添い、現状方向をしっかりと行うことで適切な医療を受けられるようにしている。近隣の病院への通院に対しては、家族対応をお願いしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	実施していない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実施していない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実施していない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制により、かかりつけ医との連携はスムーズに出来るようになってきている。かかりつけ医の専門外の医療についても、紹介状を書いていただき迅速に対応できるようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医とは、共通理解を持って治療に当たれる状況にある。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	水、日、祝日、盆正月を除き、医療連携によりほぼ同じ看護師が来所し、日常の健康管理や健康相談等を行っている。また、上記の曜日以外は、本体施設の看護師との連絡体制が出来ている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中には、家族と共に担当医からの話を聞かせていただき、受け入れ体制作り役に役立つようにしたり、退院後の対応の仕方などを相談したりしている。病院看護師とも退院後の生活に順応できるような状態を作っていたりするように連絡を取り合ったりしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、利用者本人の状態を見ながら、利用者本人、家族、医師、看護師、職員が話し合いを持ちながら進めていくことを家族にお話しし、同意を頂いている。	○	利用者、家族、医療関係者ととともに個別の終末期についての話し合いを行っていききたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	施設の現状として、出来ること、出来ないことの把握に努めている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者本人にもお話し、自立に向けた生活や心配事等を伺うようにしている。家族の不安も極力伺うように対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前で、プライドを傷つけるような声掛けはしないようにしており、誘導等の声がけも利用者が多数居る前で話さず、一対一で本人にのみ伝わるように配慮している。居室に入室する際も、プライバシーを守るように心懸けている。利用者の情報は、申し送りノートに記載し共有を図っている。個人情報については、事務室にて管理している。	○ 広報などへの掲載について、入居前にお話しし同意は頂いているが、掲載の大きさによっては家族等の考えも違ってくる場合があるので、必要に応じてお話ししていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○ お茶の時間の飲み物、入浴、洗髪、行事への参加など、毎日の生活の中で利用者の自己決定を促す機会を多く作るようにしている。意思表示の出来ない利用者については、本人の状態を見て職員が決めている。食事のメニューなど、利用者にとって反映しようとするが、希望などを聞き出せず職員が決めてしまうことが多い。	○ 本人の希望を表現しやすい食事や入浴において、自己決定を促す様な取り組み(複式献立やバイキング方式など)を行ってきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○ 食事や入浴などの基本的な一日の流れはあるが、それ以外の部分については、利用者自身の日課を行ったり、利用者の希望があれば散歩や買い物、外出などの対応をするように心懸けている。日中は、利用者のその時の気持ちを尊重した生活が出来るように配慮している。	○ 利用者の意欲を引き出して、可能な限り体を動かすような働きかけは、継続して行ってきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○ 着替えなどは、基本的に利用者の意向を基本としている。自己決定が困難な利用者については、職員が行うことが多い。理美容については、入居前の行きつけの店や知り合いの店に行くなどして本人の希望に添えるようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○ 利用者の力に応じて買い物に行ったり、畑で野菜を収穫したり、調理、盛り付け、配膳、後片づけなどを出来る限り各自が行えるように個別に声がけを行いながら一緒に行っている。利用者と職員が、同じ食事を同じテーブルで一緒に楽しく食べている。	○ 男性利用者にも、出来る範囲で食事の下ごしらえや準備などの家事参加を働きかけていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○ 一人ひとりの嗜好は把握しているが、飲酒については服薬や病気との兼ね合いもあり、日常的な提供はしていない。月1回の居酒屋喫茶や行事の際の乾杯の時などで提供するようにしている。お茶の時間については、利用者やその時の好みによって選んで頂くようにしている。	○ 居酒屋喫茶でのノンアルコールビールの対応は、少ない量でも利用者の満足感もえられることから、適量で継続して提供していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	食前や食後、習慣などを把握して、出来るだけトイレにて排泄して頂けるように声がけ、誘導を行っている。トイレの認識が薄くなってきたり、面倒くさがったり、意図的になかなか動こうとしない利用者もあり、成果としてうまく繋がらないことも多い。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したい方、一日おきでいい方等、それぞれの希望、その日の気分によって、基本的には毎日でも入浴できるようにしている。時間帯や順番については、職員の方で決めることが多いが、夕食後の入浴希望があれば希望に添えるようにしている。	○	個々の利用者の満足感を得られ、かつ安全に入浴をしていただけるような方法を職員間で随時検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の思い思いの場所で昼寝をしている。夜間の不眠の訴えのある利用者については、散歩や体操、畑仕事など、日中の活動を充実させたり、背中をさする、話を聞く、温かい飲み物を提供するなどの対応をしている。眠剤を使用したい利用者も居るが、歩行への影響があることなど話して、常用を控えるような働きかけをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節毎の畑仕事や毎日の掃除、炊事など、日常生活の中で利用者の経験を生かし一人ひとりの力を十分に発揮していただけるように役割を作ったりして行っている。感謝やねぎらいの言葉を忘れずに話すようにしている。本体施設の催事に参加して楽しんでいる。	○	一人ひとりの生活歴の掘り下げが充分でないので、継続して情報収集に努めて生かしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の現金については、原則として事務室の金庫で預かる事としている。利用者の力に応じて買い物や理髪の際の支払いなどを促すようにしている。利用者の申し出により、電話代や菓子代として、少額(1000円程度)を管理している方がいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、極力散歩や買い物、畑の草取り、収穫、ドライブなど、季節を肌で感じながら気分転換が図れるように努めている。利用者によっては、職員が付き添わずに散歩をしたり、本体施設へ行ったりすることが日常的に見られる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者からの申し出があれば、可能な限りその実現に向けて調整を行っている。季節に応じてお花見、紅葉狩りなどを利用者の意向を聞きながら行っている。自宅などへも、買い物の折りに寄るなどの対応を心懸けている。施設での旅行は実施していない。家族対応で、地元の敬老会へ参加している。	○	個別の外出を検討して増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親しい人へ、利用者の名前入りの暑中見舞いや年賀状を書いて送っている。本体施設に公衆電話があり、気兼ねなく連絡を取ることが可能だが、個室になっていないため、話の内容には気をを使う必要がある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪ねてきてゆっくりお話しできるように配慮している。また、いつでも面会できるように、特に時間の制限はしていない。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	向精神薬を使用している利用者が2名いるが、徐々に薬を減らしていくように専門医と共通理解を持ち連携している。法人全体の身体拘束委員会に参加し、廃止に向けた取り組みへの理解を深めるようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵をかけることはない。リビングからも、自由に外に出入り出来るようにしている。各居室も鍵はなく、チャイムやセンサーなどもない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	午前午後のおやつ、食事の時間で、所在確認、状態把握を行うようにしている。特に活発な利用者については、常に視界に入れて所在を確認するように心懸けている。夜間は、2時間おきに巡回を行っている。	○	職員が付き添わず散歩される方のために、本体施設や近隣の事業所や病院関係と連携をとり、常に連絡がとれるような体制作りを構築していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は、鍵付きの場所で保管、管理している。包丁などの刃物などは、事務所の殺菌庫にて保管、管理している。その他の生活に必要な物は、必要な場所に置いている。危険だからと言って、全てを排除してしまうことのないよう、利用者の状況を見ながら対応するように心がけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホームや各事業所のヒヤリはつとや事故報告書等を回覧して情報共有し、問題点などを確認し合っている。日々気づいたことについては、申し送りノートや引き継ぎ等を利用して情報を共有するようにしている。	○	ヒヤリはつとが事故防止に繋がる事を強く認識し、見逃してしまうことのないように対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医療面の部分については、医療連携の看護師に依存する部分が多い。応急手当や緊急時の対応などの施設内研修は行っていない。	○	様々な場面での対応について、看護師より口頭で知識として教わることが多い。実際に基本的な部分については、きっちりと研修、実習の機会を作り学んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で年2回、昼と夜の避難訓練を実施しており、近隣の協力団体と共に一緒に参加して訓練している。	○	グループホーム独自の訓練を、月1回は行っていきたい。特に地震の頻度は高いと思われるため、早急に消防署と連携を取り、助言を仰ぎながら行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族が面会にみえた際に、最近の様子を話しながら日常生活の中のリスク面についてもお話するようにしている。危険を回避するために、全ての綿で抑圧的にならないように心がけている。	○	ケアプランの中に、リスク面として取り上げ、家族に状況説明しながら理解を求めていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインをチェックすると共に、利用者に声をかけて体調を聞いたりして、体調変化がないか見逃さないように注意して観察している。変化があれば申し送りノートで連絡したり、口頭で伝えるなどして情報共有するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能書きについては、全職員が目を通し、効能や副作用などについて知識を得るようにしている。精神薬については、本人の能力を必要以上に落とさないように医療と連携をとり調整するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や食物繊維の多い食材を多く取り入れるようにしている。便秘でも直ぐに下剤に頼るのではなく、起床時に水を飲む、センナ茶を飲むなどしている。1日1回は、乳製品を摂るようにしている。散歩や軽い体操などの声掛けを行い体を動かして快便につなげるようにしている。	○	排泄関係が自立されている方が多いが、排泄の確認(特に排便)が出来ないため不安な部分がある。排泄の確認が出来るような方法を検討していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前の歯磨き支援を重点的に行っている。義歯を使用されている利用者については、夕食後に外していただいて洗浄剤等を使用して口臭予防に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>極端に食事や水分が摂れない利用者については、記録して職員間で情報共有している。利用者の咀嚼、嚥下状態により、お粥や刻み対応している。同じ献立が続かないようにし、特に塩分やコレステロールなどに注意している。</p>	<p>○</p> <p>毎食残食がほとんどないので、量的には充足していると思われる。反面、体重増加傾向の方が多いため、運動などを勧めると共に、個人の必要摂取カロリーなどを勉強して食事内容など検討していきたい。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>ノロウイルス対策として、トイレや手摺り、居室のベット柵、食事テーブルなどをハイターで毎日拭くようにしている。また、ノロウイルス対策グッズを常備している。利用者、職員共にインフルエンザの予防接種している。手洗い時には、ペーパータオルを使用している。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>値がはっても、新鮮で安全な食材を購入するようにし、必要以上に買い置きしないように、賞味期限などを目安にして管理している。肉や魚については冷凍保存し、早めに使い切るようにしている。作り置きはしないで、当日の物はその日の内に消化するようにしてる。</p>	
<p>G</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関などは、スロープや手摺りがあり、車椅子や体の不自由な方に出入りしやすくなっている。玄関や玄関脇には花壇やプランターに花を植え季節の花々が楽しめるようにしている。地元のボランティアの方々が、プランターに花を植えて下さることもある。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>和室より季節や天気、時間により表情を変える室根山を眺めることが出来る。居間と台所は、ワンフロアになっており、調理の音や音楽を流したりして、利用者が思い思いの生活をしている。廊下や玄関には、外出や活動の写真を掲示している。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関前の長いす、ウッドデッキ、リビングのテーブル、ソファー、こたつなど、思い思いの場所でテレビ、読書、料理の下ごしらえなど、気のあった仲間と共に和気あいあいと過ごしている。居室にいる場合でも、お茶や活動の声掛けはするが、無理に部屋から出て来るように強制せず、本人の気持ちを尊重するように心がけている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、好みのもの、馴染みのあるものを持ち込んで頂いているが、持ち込んでいる物は比較的少ない。部屋の配置などは、利用者本人や家族で行い、利用者が使いやすいようにしている。花を飾ったり、家族との写真を貼るなどして、家族を身近に感じて生活できるようにしている。	○	自宅で使い慣れた物をもっと持ち込んで頂いて、利用者個人のよりくつろげる空間作りを行っていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の起床時には、部屋の換気(サッシを開ける)を行っている。リビング等も、こまめに開け閉めして換気を行うようになっている。温湿度計や利用者の様子を見ながら、室内の温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下などに手摺りがある。浴槽内では滑り止めマットを使用するなどして、片麻痺のある方でも安全に入浴できるよう工夫して自立にむけた支援を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分で書いた表札や自宅で使用していた表札を取り付けることで、自分の部屋を認識しやすくしている。また、個人で使う物、みんなで使う物は、同じ場所に置いて混乱しないようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に花を植えたり、畑を作り四季折々18種類の野菜を作り楽しんでいる。ウッドデッキにはすぐ出られるようにしており、ひなたぼっこをしたり、布団を干したり、洗濯物を干したり出来るようにしている。近くの方は、直接ウッドデッキに来てお茶を飲みながらお話ししたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)